

第1回

- 1 開催日時 2016年5月15日(日) 午後1時～5時  
参加人数 15人
- 2 場所 大阪府議会会館
- 3 議事内容 (研究会冒頭、出席者の自己紹介があった)

- ①私(林)から、「西脇市議会の議会改革の取組」について、説明を行った。パワーポイントで作成した資料を配布し、これまでの歩みを説明。  
平成20年9月以降、議会改革特別委員会を設置して数多くの議会改革に取り組んできたこと、議会改革の推進を精力的に行ってきたが、その成果がまだまだ十分でないこと、また、議会事務局職員が議員に対し普段どう思っているか等の不満や悩みについても報告。  
その後、会員と諸論点につき質疑応答があった。  
説明が約50分、質疑応答も約50分。
- ②駒林先生(立命館大学教授)より、三重県地方自治研究センター「市町議会の在り方に関する研究会」【報告・提言】の公表について、当日配付の資料により、その内容の説明があった。  
当日配付した小冊子の項目ごとに解説していただき、最後に、まとめとして、「議会は、自ら有している議会力を自覚し、その十全な発揮のために様々な工夫をすべきである。」と結ばれた。  
(補足として高沖会員から、この【報告・提言】のPDF版は、後日、三重県地方自治研究センターのホームページから入手できる予定との報告あり)
- ③会員の入会規約等については、2月に駒林先生から提示のあった  
ア 入会には既会員の推薦を必要とすること  
イ 議員の入会には議員会員(元議員を含む)の推薦を必要とすること  
ウ 研究者の場合もイと同様とすること  
エ 入会者は本研究会が議会改革の一翼を担っていることに鑑み、議会事務局を含む議会の活性化等その充実強化を目指している本研究会の趣旨に賛同していただける方であること  
以上の再確認をしました。
- ④高沖会員(三重県地方自治研究センター)から、Q&A『先進事例でよくわかる議会事務局はここまでできる!』(学陽書房)の発刊予定日が6月9日(木)であると報告があった。
- ⑤次回研究会の日程については、7月～9月の間で、報告予定者の調整をする。

第2回

- 1 開催日時: 2016年9月10日(土) 午後1時～5時半  
開催場所: 大阪府議会会館

参加人数：11人

## 2 議事内容

(1)報告 『議会局「軍師」論のススメ』『軍師ネットワーク』『地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会』について、清水会員から説明

- ①「地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会」←私（林）も参加している。
  - ・政策サイクル論について、大津市議会の考え方に対して会津若松市議会から異論があり、なかなか議論がかみ合わなかった等々。
  - ・会津若松市議会は政策条例の議会提案は考えていない。←本当にそれでいいのだろうか？
- ②「軍師ネットワーク」
  - ・滋賀県市議会議長会と龍谷大学とのネットワークは、龍谷大学が意欲的である等々。
  - ・ネットワークには県議会事務局職員は入れないのか？
- ③「軍師論のススメ」
  - ・条例改正議案の「新旧対照方式」を執行部とは異なり議会議案だけが採用していることの驚きが大きかった等々。
  - ・議員を「先生」と呼ぶことには、抵抗のない議会もあるのではないか？  
(全体的に説明資料等が大部なため、時間が足りなかった)

(2)報告 『大阪府議会における情報公開の取組』について、中谷会員から説明

- ・大阪府議会出前講座の開催等について資料に基づき説明あり。
- ・11月15日全国都道府県議会議長会の研修会で報告予定
- ・マニフェスト大賞事務局からの要請で同賞に応募

(3)報告 『箕面市議会の改革の取組について』三浦会員から説明

- ・3S（整理・整頓・清掃）活動を取り入れ、議事課長として課の改革に着手した。
- ・課内勉強会などして職員のスキルアップに取り組んでいる。
- ・これから制定予定の議会基本条例が今後の課題

(4)その他

- ① 研究会の今後の取組について、駒林共同代表から提案あり。研究会の本も出たことだし、今後プロジェクトとかで情報発信してはどうか？
  - i) 事務局の軍師としての機能強化策について
  - ii) 政務活動費に対する事務局の具体的対応策(モデル条例案も含めて)
  - iii) 議員として知っておくべき内容

② 近況報告

- ・盛議長（伊万里市議会議長）から、8月26日の栗山町議会基本条例制定10周年記念事業の講演等について報告あり。10年前に何故臨時会を開催してまで議会基本条例制定の一番手になったかの裏話など。

③ その他(高沖共同代表から)

i) 今年1月開催した「3大議会事務局研究会の合同シンポジウム」の次回開催は「いわて議会事務局研究会」が主催で開催だが、その日程予定は、来年1月早々であるとのこと。

内容は、アドバイザーの北川正恭氏と早稲田マニフェスト研究会がからみ、青森中央学院大学の佐藤教授や岩手県市議会議長会とも連携して開催予定。福島県市議会議長会にも声をかける予定とか。

開催場所は、盛岡市か花巻空港に近い花巻市を予定とのこと。

→ 宮城県市議会議長会や青森・秋田・山形県市議会議長会にも声をかけてみたらどうかと依頼した。

ii) 6月に発刊した「議会事務局はここまでできる!!」(学陽書房)本は、会員の皆様の御尽力もあり、第1刷の1、200部のうち1,000部を販売。

iii) 1月の3大事務局研究会の合同シンポジウム開催や研究会の活動報告本も発刊したこと等などもあり、今年のマニフェスト大賞に研究会として応募。

④次回研究会の日程について

来年1月の合同シンポジウムの開催も勘案し、できれば12月中にも開催したい。

(12月10日開催予定・江藤俊昭教授も出席予定)

■報告・所感

・第1回

今年1月の3大事務局研究会合同シンポジウムに参加して感銘を受け、すぐ入会申し込みを行ったところ、入会を許可してもらえた(本来は議会事務局職員のための研究会であり、議員は特別枠扱いの模様・現在は議員メンバーの推薦が無いと入会できない)←全然参加しない名ばかり議員会員も存在するらしい(アクティブメンバーで会を構成するという意思と思われる)

今年度第1回目の初参加でいきなり報告の任を与えられ、緊張しつつもこれまでの西脇市議会の議会改革の歩みを報告し、併せて当議会事務局職員の本音も少し聞いていたので、紹介もさせてもらった。

西脇市議会の取組みは決して他市に劣っているものではないが、制度に比して内容がまだまだ伴っていないことも包み隠さず報告。本メンバーからは、研修をしっかりと行うこと、また他市の取組みなどを見聞きすることで刺激を受け、「このままじゃいかん」と感じてもらうことが大切とのアドバイスも受ける。

また事務的には滞りがちの委員会議事録などは、まずは速報版を可能な限り早く(1か月以内)にHP等にアップし、後に完全版を差し替えればいいとのアドバイスも受ける。半年も1年も遅れて議事録をアップされても使い物にならないとのこと。(←既に事務局には伝達済)

終了後には懇親会があるのも定例の模様。

しかし、そこでも議会の話の花が咲く。たまたま隣の席になった元亀岡市議会事務局長今西氏より亀岡市議会の取組みの情報を得、それが7月の議会運営委員会の視察に繋がっている。また今年の11月に大津市議会局の清水氏に研修講演をしてもらえるのも、本研修会参加のお陰と言っても過言ではない。

その他、色んな議会の取組みを聞くことができ、大いに刺激を受けた研究会初参加だった。

・第2回

大津市議会局清水氏から私も参加している「政策サイクルと評価モデル研究会」の報告があった。

詳細は別に「政策サイクルと評価モデル研究会の中間報告書」を読んでもらうとして、会津若松市議会の「議会報告会を起点として政策サイクルを回し、執行部に政策提案を行っていくスタイル」と大津市議会の「議会は立法機関なので、政策条例を作り、住民の福祉の向上に寄与していくスタイル」との対立（かどうかはわからないが）を議題に議論を深めた。自治体の規模も違うので、単純な比較はできないが、会津若松市議会は「政策条例の立案は行わず、あくまで政策（事業）提案である」一方の大津市議会は「議会報告会を行わない。議会は立法機関である」という決定的な違いがある。

私などは事案によって「政策（事業）提案」もあれば「政策条例立案」もあるだろうと思うのだが、現実、小さな議会ではなかなか政策条例立案まで行くのは困難であるとも思う。議会事務局研究会では「政策条例立案を端から捨てるのは立法機関としてあり得ない」という意見が大勢だった。私も現実としては難しくとも。最初から「政策条例立案しない」と規定するのもどうかと思う。

また大阪府議会の取組みについては政党同士の諍いばかりが報道されるので、広報や広聴に対する取組みを聞いて、正直驚いた。高校に出向いてしっかり主権者教育もやっているし、議会や委員会などネット生中継したその日のうちに録画配信も行う（西脇市議会だと2週間後くらい）など、情報の鮮度が我々とは全然違う。また一般質問を終えた直後に議員インタビューも行い、それも放映しているなど、先鋭的な取組みだった。一度見てみることをお勧めしたい。

箕面市議会の取組みは3S活動も徹底してやっていることだった。議事課長自ら本会議や委員会開催の前日には議場や委員会室を掃除しているとのことだった、机も全部磨くとのこと。誰に言われるでもなく進んで一人で全て行っているとのこと。非効率的なのかも知れないが、その姿勢には頭が下がる。「明日は大事なく議事が進行しますように」と願いながらするそうです。また事務局職員たちで仮想の政策条例を作り、条例の作り方などの研さんにも励んでいるようです。ただ、私が「その仮想でもせっかく作ってみた条例はどうしたんですか？」と聞くと、「シミュレーションですんで、私の机の中にしまっています」との返事だったので、その瞬間、会のメンバー全員から「勿体ない！」との大合唱でした。私含め他の議員メンバーも「議員に提案させなきゃ！」の声を上げましたが、「まだまだその域には達してません」との謙遜でした。

帰り道、駒林先生からは「是非、西脇市議会事務局も参加してくださいよ」と言われました。

こういう研究会に参加するとすごい刺激にも勉強にもなることは、たった2回の参加ですが、強く思います。また他府県の議会事務局職員や議員とも繋がりができ、困った時やわからない時、また最新の情報などを得ることもできます。また進んで自分のところの事例も発表することにより、気づきも多く生まれます。

そして毎日メーリングリストでやり取りもしているので、ホットな話題の対処法や考え方を知ることができるのもあり難いことです。

是非、西脇市議会事務局職員も誰かが参加すべきだろうと考えます。

議会事務局研究会のメンバーのみなさんは本当に地方議会の将来を考えてくれています。我々議員には涙が出るほどありがたいことです。その熱い思いに応えるためにも、我々議員は背筋を正しもっと真摯な態度で議会活動を行わないといけないと強く思います。